

日本銀行
帯広事務所長

齊藤 徹



学生の頃、東京・神田神保町の古本屋で、ウィルヘルム・フォッケの「健全通貨」を見つけたとき、心躍る思いがした。この本には、1939年1月、ドイツの中央銀行理事会が、軍備拡張を進めるアドルフ・ヒトラー宛てにインフレの危険を警告した書簡の翻訳が収められている。自らの職を賭して信念を貫く勇氣ある行動に深く感銘を受けたのを覚えている。

わが国では、98年4月、日本銀行法が改正され、中央銀行の業務運営に「自主性」が与えられるとともに、政策の決定内容や決定過程に関して「透明性」の向上が求められるようになった。単に信念を貫き通すだけでなく、周囲の理解を得るための説明責任が一段と重要になっ

た。元来、短期市場金利を操作することに よって、経済・物価を安定させる金融政策は、その一つにロケットの射場がある。大樹町の宇宙関連産業誘致は、84年、北海道東北開発公庫が航空宇宙産業基地構想を発表したことを受け、85年にスタートした。昨年には、わが国で初めて海外のロケットを打ち上げたほか、再使用型ロケット実験機の離着陸も実現した。今年には新たな射場が完成する予定にある。

効果波及プロセスにおいて、さまざまな関係者の理解と協力が欠かせない。帯広事務所の業務も、数多くの方々の協力のもと、遂行することができている。父親が宇宙開発に携わっていたからというわけでもないと思うが、十勝赴任期間中に一度は訪れたいと思っていたところの

に、当地における宇宙関連産業育成の40年という長い道程を思うと、関係者の方々の強い信念を感じざるを得ない。幸いなことに、これまで2回、射場を見学させていただく機会があったが、最初に訪問した際、近くの漁港に連れていかれたのが印象的であった。この射場に

十勝モンロー主義

かちまい 論壇

は、晴天率が高く、海に開かれていて、拡張性があり、交通アクセスも良いなど、数多くの強みがあるが、何よりも地域住民からの理解と協力が得られているのが最大の強みなのだという解説を聞いて思わず膝を打った。宇宙関連産業の裾野は広い。

十勝における宇宙関連産業のさらなる発展に期待することも、自らも日本銀行業務の理解促進に貢献していきたいと思う。

十勝には天体観測をしていたと考えられている場所がある。十勝モンロー主義といわれる十勝イズムは、排他的な意味ではなく、いざというときに団結する相互扶助の精神にあると聞いたことがある。域内連携することで地方から中央を動かしてきた実績のある十勝が、宇宙ビジネスという成長分野をどのように開拓していくのか。想像は膨らむ。

（う） 曲折があったであろう

（う） 衛星情報は、既に営農